

2022年8月2日

南山大学人文学部心理人間学科2年 中山真理伽

1. 山田先生の「妖怪」

・「妖怪」の原点：小5頃からもっている死への恐怖を紛らわせるもの(勉強や恋愛で紛らわせることもあった)

・妖怪を描き始めたきっかけ：芸術家として成功&美人の彼女→幸せの絶頂期に→恐ろしいものがなくなると、死の恐怖を考えるようになる→恐怖を紛らわせるため地獄絵や妖怪の絵を描くようになる(死以外の恐怖を作り出した)



・なぜ妖怪が生まれたのか：平安時代や江戸時代など、自由で余裕のある苦しみのない時代に妖怪は多く生まれている



このことから・・・平和な時、人間は怖いものを求める



では、人間にとって最も怖いものは？

→死。死は、万人に必ず訪れる、逃れられないもの⇒死の恐怖は消えない



怖いもの(死)を払しょくするため、別の怖いものを考える⇒妖怪の話が生まれる

・戦争など、死や妖怪より恐ろしいものがあるとき、妖怪は必要とされず、生み出されない



山田先生は、生涯の大部分を死の恐怖と戦っている。そこから、妖怪の考察が始まっている



2. 山田先生と名古屋の妖怪

・そもそも、名古屋には妖怪話が少ない

↓
↳なぜか？→名古屋では目前の不自由さの方が怖いものだったから

ないなら探して作ればいい！→名古屋の伝承や特徴から、妖怪を創作する

↳なぜか？→死の恐怖を紛らわせたい。名古屋で妖怪を定着させたい。妖怪の話で名古屋を盛り上げたい。

・「名古屋の」妖怪に興味をもったきっかけ；尼ヶ坂の妖怪の話

子どものころ、お城から尼ヶ坂近辺の森には行ってはいけないといわれていた



尼ヶ坂の森にある片山神社には行かないようにしていた



後年、尾張徳川藩の殿様のための逃走用経路に人を立ち入らせないようにするために怖い話が言い伝えられるようになったのでは？と考えるようになる



妖怪が使える！

例)尼ヶ坂のエピソードからつくられた妖怪→尼亡霊



「名古屋の」妖怪に興味を持つように

➡名古屋に妖怪が少ないのは、死の恐怖以前に差し迫った不自由があり、死の恐怖を紛らわせるための恐怖である妖怪が必要とされなかったから。

名古屋に妖怪をつくろうというのは、山田先生が始めた新しい試みだった。